



池田駅開業（大正3年）

された。このとき、起点附近の新線上に川田駅を新設し、従来の船戸駅を廃した。建設費は一五四万四六九五円であった。

2 道路・橋梁——三好新道・祖谷街道・川崎橋

総延長二八〇キロ（工費七四万一〇〇〇円）、道路の幅五・五メートル。完成したのは二七年五月である。そのうち三好新道の三一・四キロ（工費七万八〇〇〇円）は二三年三月に完成した。徳島県の県費は、四国連合新道開き費として明治二〇年度から同二六年度に、合計一六万一六〇五円であった。この道路は多度津から猪ノ鼻峠、州津、大具渡し、池田、白地渡し、大歩危を経て高知に至り、香川、徳島、高知の三県を結ぶ。池田町での進捗状況は、明治一九年春、東州津赤鳥居に県土木出張所が設けられ、蔵谷付近の難工事が竣工、翌年（明治二〇）春には、落まで開通、四年後に猪ノ鼻峠の掘削工事も竣工し、新道が、香川県に通じた。

この間、大具、白地間の工事に着手し、弥重谷を埋め、それより東大具までの間は、寛永年間取り崩した池田城の石を使用した。また白地渡しより山城谷山村界にある聖野村境まで道幅一丈五尺（四・五三メートル）は明治二二年に竣工した。

この三好新道の開設は、阿讃国境の讃岐山脈を横断する猪

三好新道 明治二三年三月に三好新道が開通した。香川県多度津を起点として本県を経て、高知県に達する道路と、香川県から愛媛県に通ずる道路からなる四国新道のうち本県を通過している部分が三好新道である。

四国新道の起工式は明治一九年三月一〇日に高知県で、三月二五日に池田小学校で、四月七日に琴平神事場で行われ、

ノ鼻峠、吉野川の横断と大歩危・小歩危の險の開き、四国山地の横断等、困難な条件を克服しなければならなかった。旧道は大歩危の險を避けて、下名から根津木峠、白川口へ出るか、高知県本山町川口から笹が峰を越えて愛媛県新宮村へ出ていた。新道は吉野川の河岸に沿って大歩危、小歩危の岸壁を切り開いて徳島県と高知県を結んだ。昔の山越えルートを歩く人は少なくなった。また古くから交流のあった三好郡と香川県は猪ノ鼻峠が切り開かれたので、ますます密接となった。

しかし、最も困難な工事は吉野川の架橋で、大具の渡しは昭和三年一月六日三好大橋の完成まで、白地の渡しは昭和二年五月三好橋の完成まで三好新道の障害となっていた。

四国新道は明治二八年国道三二号線、大正八年国道二三号線となった（昭和二七年国道三二号線となる）。

この新道の開設に努力し、偉大な功績を残した人は大久保謙之丞と武田覚三である。大久保謙之丞は香川県三豊郡財田村の素封家に生まれ、この新道開きのため東奔西走したが、明治二四年二月香川県会で討議中発病し、その完成を見ないで、四二歳で永眠した。武田覚三は美馬郡猪尻村出身で、明治二二年三好郡役所書記となり、その後郡長に任命され、大久保らとともにこの新道開設に尽力した。